

令和2年度

三条市幼児教育推進プラン実施状況報告

(令和2年12月末現在)

令和3年2月

三条市教育委員会 子育て支援課

《重点項目1》 幼児教育内容の一層の充実

*小学校等とは、市内小学校及び義務教育学校前期課程を指す。

中学校等とは、市内中学校及び義務教育学校後期課程を指す。

施策(1) 「遊び」を通じた豊かな教育活動

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
<p>①運動遊びの推進 (新規・強化)</p>	<p>●運動遊びの推進</p> <p>保育所(園)における「運動遊び」に対する理解を更に深め、施設での実践につながるよう、「三条版運動遊びプログラム」の活用を促進していく。また、引き続き、保護者への啓発を図る。</p> <p>○大崎山自然体験活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所5施設において1回実施(秋) ・実施施設…9月(2施設)、10月(3施設) <p>○自然体験活動研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日…1回目5/12(大崎山公園) 2回目9/23(しらさぎ森林公園) ・対象…年長児担任、その他希望職員 ・参加者…1回目16人、2回目12人 ・講師…小林 良範氏(にいがた里山研究会理事長) ・内容…自然の知識、自然の中での発見、体験等、実地研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所9施設において春秋冬それぞれ1回ずつ実施の計画としていたが、春については新型コロナウイルスの感染拡大を受け全施設において活動を中止、秋と冬についてはクマの出没により10月から12月の活動を中止としたため5施設の実施となった。 ・実施した各施設からは、「子ども達が活動により、作られた玩具やメディアでは得られない驚きや感動を味わい、自然の中で遊びに没頭していた。」「遊具がない中でも草木を使って自分たちで遊びを考えていた。」などの報告があり、活動の目的である「自分で自由に考え発想し判断する」機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症やクマの出没など、当初想定していない事態により活動を中止せざるを得ない状況があったため、参加児童の安全面を考慮しつつ活動内容等や実施場所、時期等を検討していく必要がある。 ・運動遊びプログラムと併せて県主催の運動遊びの研修等に保育士等の参加を促し、保育等における各年齢の子どもに合わせた運動遊びの充実を図る。

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
	<p>○「三条版運動遊びプログラム家庭編」配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期…4月 ・対象…市内幼稚園・保育所（園）等の年少児保護者 ・配布数…784部 ・保育所（園）等の参観において運動遊びを紹介し、親子での運動遊びを实践 	<ul style="list-style-type: none"> ・年少児の保護者への配布のほか、子育て支援センターやNP講座、初めてのママ講座において家庭における運動遊びを紹介するなど、周知対象を拡充した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前児童の保護者が集まる市主催の講座等を活用し家庭における運動遊びの周知を図っていく。
<p>②指導計画の改善・充実 (継続)</p>	<p>●保育のガイドライン活用状況把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年3月に作成した「保育のガイドライン」の活用状況を幼稚園、保育所（園）及びこども園へのアンケートにより把握する。 <p>●保育指針等に基づく指導計画作成の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の作成の状況や実施状況を把握し、支援を実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・活用状況をアンケートにより把握し、活用が進んでいない施設について、日常の保育計画への活用が促進されるよう働きかけを行う。
<p>③体験活動の充実 (継続)</p>	<p>●保育所等と保護者への啓発・支援</p> <p>親子の触れ合いを含む体験活動の重要性について啓発するとともに、保育所（園）における活動を支援する。</p> <p>(1)-①-運動遊びの推進に同じ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (1)-①-運動遊びの推進に同じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (1)-①-運動遊びの推進に同じ

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
④5領域 の教育 内容の 充実 (継続)	<p>●研修会等の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回数…計5回 ・内容…パワーアップセミナー、初級保育、乳児保育、子育て支援研修会 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、募集人数の制限があったことから当初の予定より参加可能人数が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の影響による研修会の開催状況を踏まえ、オンライン研修などにより参加可能なものについて引き続き情報提供を行う。
	<p>●絵本研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日…8/21 ・会場…栄庁舎3階大会議室 ・講師…加藤 由美子 氏（新潟大学青陵幼稚園長） ・演題…「絵本が育む想像力」 ・参加者…25人 (私立15人、公立6人、市内小学校4人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者からは「絵本を楽しむ環境づくりや子どもの発達、興味に合わせた絵本の選定の仕方などが参考になった。」との声があり、絵本を通じた保育者としての関わり方や子どもの育ちを学ぶ機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等の研修に対する要望等を踏まえながら内容を検討していく。
	<p>●食育事業の実施</p> <p>○食育巡回指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各保育所（園）28施設（全104回） ・3～5歳児対象（延べ2,058人） ・3歳未満児対象（延べ28人） <p>○食育講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象…5歳児及びその保護者 ・内容…調理実習及び保護者食育講話 ・実施施設数…22施設 ・参加保護者数…463人 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により28施設中6施設が中止となった。 ・令和元年度から保育所主導での講座の開催を依頼しているが、施設によっては準備等に市の介入が必要な施設がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設主導での実施が進むよう、各施設の実情に合わせた実施方法（保護者の参加の有無、児童数が多い施設での複数回実施、見守りが必要な包丁などの調理器具を使用しない調理方法等）について検討する。

施策(2) 特別な配慮が必要な子どもへの支援

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
<p>①三条市 子ども・若 者総合 サポー トシス テムの 充実 (継続)</p>	<p>●発達障がいや虐待の早期発見と支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい児管理数 584 人 (可能性のある児を含む) ・虐待通告件数…79 件 (うち虐待とは判断しないもの 32 件) 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児健診や年中児発達参観を通じて潜在的な発達障がいの顕在化が進んでいる。 ・児童虐待対応については、対応する職員の知見が蓄積され、各ケースに対して適切な対応をとることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取組を引き続き着実に実施していく。
<p>②年中児 発達参 観の着 実な実 施 (強化)</p>	<p>●年中児発達参観実施の支援</p> <p>○子どもの育ちや個性に早期に気付き、保護者、保育者、臨床心理士、保健師と一緒に子どもの育ちや個性に合わせた成長を考えていけるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施幼稚園・保育所(園)等…31/32 施設 ・実施回数…57 回 ・対象児数…700 人 ・参加児数…681 人 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として、三密回避のため、1 回当たりの参加人数を通常よりも少なく (18 人→15 人) し、参観の回数を増やすことで対応した結果、ほぼ計画どおり実施することができた。 ・年中児発達参観の実施が市内保育所等においてほぼ定着してきており、児童の発達における課題の早期の気付きに一定の効果を上げている。 <p style="margin-left: 40px;">要支援児 59 人 (8.7%) 要観察児 127 人 (18.6%) 支援不要児 495 人 (72.7%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き年中児発達参観を着実に実施していくとともに、未実施施設については発達に課題がある児童への個別の対応を行う。

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
	<p>●「個別の発達支援計画」に基づく支援のサポート</p> <p>○個別の発達支援計画の引継ぎや活用の促進、支援計画作成状況及び引継ぎ状況等を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の発達支援計画作成数 <p>公立…118 共有…89 共有率…75.4%</p> <p>私立…92 共有…86 共有率…93.5%</p> <p>全体…210 共有…175 共有率…83.3%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいに対する保護者理解が進みつつあり、年中児発達参観前に個別の支援計画作成を作成し、支援につなげている子どもが増えてきた一方で保護者が支援を必要と感じないなど共有が難しいケースもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援コーディネーター研修での保育者のスキルアップを図り、保護者の障がいへの理解を促進していく。
<p>③発達障がい等に対する啓発活動の充実(継続)</p>	<p>●発達障がいに対する啓発活動</p> <p>○発達応援講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日…11/7 ・講師…発達クリニックばすてる非常勤小児科医 和田 有子 氏 ・演題…「みんな凸凹でいいんだね」 ～発達凸凹に学ぶ子どもとのつながり方～ ・対象…市民 ・参加人数…150人 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の保護者や保育所等及び小学校の職員の参加があり、「発達障がいの子どもに対する接し方が参考になった」などの意見が多く寄せられ、市民の発達障がいに対する理解の促進につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の発達障がいに対する理解の促進ため、引き続き実施していく。
<p>④発達支援コーディネーターを中心としたサポート体制の確立(強化)</p>	<p>●発達支援コーディネーター研修の実施</p> <p>担任、保護者及び関係機関との連携の図り方や発達支援教育に関する知識等を学ぶ機会を提供</p> <p>○第1回スキルアップ講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日…6/2 ・内容…気になる子どもとその保護者理解 ・講師…阿部 真紀子 氏 (臨床心理士) ・対象…各施設の発達支援コーディネーター ・参加者…22人 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士が年中児発達参観前に発達障がいの子どもへ気付いた割合は昨年度と比較してほぼ横ばいとなっており、発達障がいへの気付きのスキルアップにより参観前の気付きを向上させていく必要がある。 <p>《年中児発達参観前の発達障がいへの気付きの割合》</p> <p>R1年度：82.4%</p> <p>R2年度：83.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きスキルアップ研修及びフォローアップ研修を実施することによりコーディネーターの資質向上を図るとともに、新規養成も行っていく。

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
	<p>○第2回スキルアップ講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日…2/26 予定 ・内容…問題行動への考え方と対応の仕方について ・講師…長澤 正樹 氏 (新潟大学教職大学院教授) ・対象…各施設の発達支援コーディネーター ・参加者…24人予定 <p>●発達支援コーディネーターの支援</p> <p>保健師、臨床心理士による保育所(園)等の訪問時に児童への対応や保護者支援について発達支援コーディネーターと一緒に検討し、必要に応じて助言を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援コーディネーターの抱える課題について、子どもの発達に関する専門職からの助言により、子どもへの適切な関わりができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援コーディネーターの相談先として引き続き専門職が対応していく。
<p>⑤ユニバーサルデザインの視点に立った保育環境の構成(強化)</p>	<p>●ユニバーサルデザインに関する研修会等の情報提供及び研修の実施</p> <p>○発達支援コーディネーター研修での啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回スキルアップ研修の中でユニバーサルデザインについて講義を行う。(2/26 実施予定) 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き発達支援コーディネーター研修においてユニバーサルデザインの啓発を行っていく。
	<p>●小中一貫教育推進課の行う特別支援教育研修会への参加促進</p> <p>○発達応援セミナー開催(中止)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止のため中止とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に向けて開催方法等について検討を行う。

施策(3) 教職員の資質や専門性の向上

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
<p>①資質・専門性の向上のための研修の充実(継続)</p>	<p>●資質向上のための研修会の開催</p> <p>○新潟大学附属幼稚園・長岡市・三条市合同研修会実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日… 6/18、11/5、1/28(オンライン開催) ・指導者…東京大学発達保育実践政策学センター 教育学部長 秋田 喜代美 氏 副センター長 浅井 幸子 氏 センター教員 野澤 祥子 氏 ・内容…各園の研修システムの改善と構築を通して保育の質の向上を図る。 ・対象…保育の中心的役割を担う保育者 ・参加者…19人(公立9施設、私立10施設) <p>○保育者実践力向上研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日…7/21 ・講師…新潟大学附属幼稚園教諭 ・内容…10の姿を通して子どもの多面的な姿を捉え方や遊びの中での保育者の関わりを考える。 ・対象…主事、主任級保育士 ・参加者…25人(各施設1人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度3回実施予定のうち2回が終了し、参加者からは「保育実践を発表し、自分でしっかり保育を振り返り、考える機会となっている。」「ミドルリーダーとして、研修内容を園全体で共有し、園内研修に活かした。」という声があり、研修の目的である中堅保育士の資質向上及びそれによる施設全体としての保育力向上の動きが見られる(参加率:公立100%、私立43%)。 ・研修では附属幼稚園における保育中の子どもの行動や表情、会話から「10の姿」に照らした育ちを見取り、グループ内で話し合いを行った。それにより参加者からは「「10の姿」に照らした子どもの育ちや遊びを見るということに関して大変参考になった。」「自分の子どもの姿の見方に偏りがあることに気付いた。」などの声があり、研修の目的を果たしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修は3年間の計画となっており、研修の効果を最大限に得るため、継続して参加していくこととし、未参加の施設にも参加を促していく。 ・引き続き、階層ごとに身に付けるべき知識や保育スキルなどについて研修内容を考えていく。
	<p>●園内研修及び自主研修への支援</p> <p>○研修会等の情報提供及び参加集約</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の影響による研修会の開催状況を踏まえ、オンライン研修など参

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟大学附属幼稚園「遊びのとびら」公開保育（オンライン）案内 ・市主催研修会で使用した保育動画、資料を貸し出し、園内研修で活用 <p>○自主研修を行う際の講師の紹介</p>		<p>加可能なものについて引き続き情報提供を行う。</p>
<p>②一人一人の特性に応じた幼児教育の実施（継続）</p>	<p>●教育・保育活動に関する研修会等の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の向上を目的とした研修の情報提供及び参加と りまとめ 		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の影響による研修会の開催状況を踏まえ、オンライン研修など参加可能なものについて引き続き情報提供を行う。
<p>③保護者との信頼関係の構築（継続）</p>	<p>●保護者支援に関する研修等の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性の向上を目的とした研修の情報提供及び参加と りまとめ 		<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の影響による研修会の開催状況を踏まえ、オンライン研修など参加可能なものについて引き続き情報提供を行う。

施策(4) 信頼される幼稚園・保育所(園)づくり

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
①評価サイクルによる保育所評価の実施(強化)	<p>●保育所評価の着実な実施への支援</p> <p>○保育所評価の実施支援(2月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度評価結果についてホームページにおいて公表 ・今年度「保育所評価ガイドライン」が改訂され、各施設に周知 <p>○厚生労働省主催「保育所の自己評価ガイドライン」オンライン研修会の案内(2/10、2/22開催予定)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・評価、公表を行っていくことが保護者との信頼関係やより良い保育所運営へと結び付くため、アンケートにより評価の実施状況を把握し、評価の取組が進んでいない施設について働きかけを行っていく。
②「保護者先生体験」の実施(継続)	<p>●「保護者先生体験」の実施への支援</p> <p>○保護者からの希望を募り、保育者(先生)の業務を体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の実施状況をアンケートにより把握(2月～3月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策のため、参加保護者数を制限(初めて体験する保護者を優先)し、会食を無くすなどして実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者体験を通じた保護者と保育所等との信頼関係を深めるため、引き続き実施する。
③学校評議員制度や苦情処理制度の活用(継続)	<p>●苦情処理体制整備への支援</p> <p>○苦情処理制度の体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の実施状況をアンケートにより把握(2月～3月) 		

《重点項目2》幼稚園・保育所（園）等と小学校の連携の推進

施策（1） 確実な引継ぎ・継続的な支援

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
<p>①個別の発達支援計画の活用（強化）</p>	<p>●小学校等訪問及びアンケートによる個別の発達支援計画の引継ぎ及び活用の状況把握</p> <p>○接続期における小学校訪問・情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象児童数…新1年生 703人 ・訪問時期…6月～7月 ・訪問校…市内全小学校、義務教育学校、特別支援学校 ・訪問者…指導主事、発達ルーム専任指導員、児童クラブ推進員、幼保小連携推進員、幼児施設職員 <p>○接続期における幼稚園・保育所（園）等訪問・情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象児数…年長児 686人 ・訪問時期…10月～2月 ・訪問施設…全幼児施設 33施設 ・訪問者…指導主事、地区担当保健師、発達ルーム専任指導員、児童クラブ推進員、幼保小連携推進員 	<p>・訪問を幼児施設職員との情報交換の機会として積極的に活用する小学校が増えている。</p> <p>《幼児施設に対し訪問を希望した学校数》</p> <p>H30年度…3校 R元年度…10校 R2年度…13校</p>	<p>・幼児施設から小学校へのつなぎの機会として引き続き実施していく。</p>

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
	<p>○「個別の発達支援計画」の引継ぎ状況の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所（園）等から、小学校へ「個別の発達支援計画」の報告書の提出 ・ 状況把握（3月実施） <p>●新保育要録作成・送付の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保育所長、保育園長会議にて説明（9月） ○ 全施設に資料送付 ○ 要録の作成に当たり記入方法や就学先との調整について助言（3月） 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の発達支援計画の小学校での活用を促進するため、活用の意義を幼稚園・保育所（園）に周知していく。 ・ 小学校への引継ぎの重要な書類となることから、適切に作成がされるよう助言を行う。
<p>②三条市子ども・若者総合サポートシステムの啓発 (継続)</p>	<p>●三条市子ども・若者総合サポートシステムの啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就学児健診、中学校入学説明会での周知 ・ 校長会での周知 ・ 高校への説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援が必要な生徒について、義務教育終了後は市が管轄する学校のように常に支援状況を把握することが難しいため、総合サポートシステムへの登録を勧めるとともに、市内、近隣の通信制を含む高校を訪問し、同システムや青少年相談などの取組を紹介し、市の支援へのつなぎを依頼した（市内5校、近隣11校）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き様々な機会を通じた周知、啓発を行っていく。

施策（２） 交流活動の推進

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
<p>①幼保小連携活動の支援 (継続)</p>	<p>●幼保小・職員交流活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流活動報告書作成・配布 ○交流活動計画書とりまとめ ○交流活動実施の際のバス運行調整 <ul style="list-style-type: none"> ・計画していた活動の中止や感染症対策についての相談支援 ・実施状況を報告書により把握（3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により交流活動の中止もある中、三密回避のため、交流児童が一堂に会する活動に代わり、自己紹介カード（掲示用）を作成し交換するという工夫を凝らして実施している施設があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の影響下における交流活動の実施方法（学区の施設同士での情報交換(お便りの送付等)）の提案をしていく。 ・交流活動の様子を訪問により把握し、好事例について紹介していく。
<p>②幼保小連携合同会議の開催 (継続)</p>	<p>●連携合同実務者会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回連携合同実務者会議 5/1（中止） ○第2回連携合同実務者会議 2/16、2/17 <ul style="list-style-type: none"> ・会場…栄庁舎3階大会議室 ・内容…今年度の交流活動の反省点及び次年度の計画立案 ・参加者…幼稚園、保育所（園）、小学校等連携実務者 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回会議は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とし、各学園単位での打合せとした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小交流活動の企画及び調整の要となる会議のため、引き続き実施していくが、新型コロナウイルス感染症の状況も踏まえながら、オンライン会議なども含めて開催方法について検討を行う。

施策（3）育ちのつながりを意識した指導

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
①保育参観授業参観の充実（強化）	<p>●保育参観・授業参観の実施促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各施設の活動計画一覧表を配布し交流活動の啓発、促進を行う。 ○小学校教員の「保育者体験」、保育者の「小学校教諭体験」の実施状況の把握 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の実施状況をアンケートにより把握（2月～3月） 		<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートにより実施状況を把握し、取組が進んでいない施設に対して実施方法等について提案していく。
②「安心わくわくプログラム」「スタートモデルカリキュラム」の活用（強化）	<p>●「安心わくわくプログラム」「スタートモデルカリキュラム」等の活用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新学習指導要領に合わせ見直した「令和2年度版スタートモデルカリキュラム」の活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校訪問、保育所訪問で幼保小連携推進員が環境設定、活動内容について把握 <p>●「安心わくわくプログラム」「スタートモデルカリキュラム」等の活用状況把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見直し後のスタートモデルカリキュラムの活用状況をアンケートにより確認（2月～3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「安心わくわくプログラム」「スタートモデルカリキュラム」の活用により、保育所等において小学校の生活を意識した活動や、環境の整備がなされていることが確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる活用を促すため、幼保小連携実務者会議や小学校及び保育所等訪問の機会を捉えて周知を行う。
			<ul style="list-style-type: none"> ・活用状況をアンケートにより把握し、活用がされていない施設については理由等を確認の上、活用が促進されるよう働きかけを行う。

《重点項目3》 家庭への支援の充実

施策(1) 家庭の教育力の向上支援

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
<p>①家庭教育講座の充実(強化)</p>	<p>●保護者を対象とした講座実施への支援</p> <p>眠育講座を追加し、幼児教育家庭教育講座の拡充を図る。</p> <p>○家庭教育講座の開催</p> <p>(1)「眠育講話」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象…保育所(園)、幼稚園等の3歳児保護者対象 ・講師…日本眠育推進協議会理事 石井 正文 氏 ・内容…子どもの成長、発達に関わる睡眠の大切さについての講話 ・実施施設数…7施設 (私立1 公立6 142人参加) <p>(2)「子育て講座」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象…保育所(園)、幼稚園等の3歳児保護者 ・講師…外部講師、各保育所所長、主査又はフリー主任 ・内容…子どもの関わり方のヒントを学ぶとともに、グループワークを通して保護者同士の交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座への参加者アンケートでは「睡眠の大切さを改めて認識した」など、就学に向けた睡眠を含めた生活リズムの定着に役立っている。 ・講座への参加者アンケートでは「子どもへの接し方で他の家庭でも同じような悩みがあるということが分かり安心した」など、子育て上の悩みの軽減につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期における眠育の取組を推進するため、眠育講話の開催の拡充を図っていく。 ・実施施設及び保護者のニーズを踏まえて講座内容について検討していく。

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
	<ul style="list-style-type: none"> ・実施施設…4施設 (私立2 公立2 43人参加) ※ (1) 又は (2) どちらかを選択 ○NP 講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・内容…乳幼児を持つ保護者の育児不安を軽減し、児童虐待防止を図り、保護者同士の情報交換や仲間作りの支援を行う。 ・実施概要…1講座8人 6回×4クール 参加者数19人 6回×1クール 2月実施予定 ○初めてのママ講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・内容…初めて乳児を育てる保護者の育児不安を軽減し 保護者同士の情報交換や仲間作りを支援する。 ・実施概要…1講座14組(母親と赤ちゃんが一緒に参加) 4回×4クール 参加者数37人 4回×2クール 1, 3月実施予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者アンケートから「子育ての悩みを共有できて良かった」「新型コロナウイルス感染拡大の中、家族以外と話しをたり、外出したりできなかったので、このような機会があった」という声が多くあり、子育てする上での保護者の心理的な負担軽減につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の子育てに関する心理的負担軽減を図るため今後も引き続き実施していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校入学予定児童の保護者に「わくわくチャレンジ(安心わくわくプログラム家庭版)」の配布 ・小学校就学児健診(10月)の際に「わくわくチャレンジ」を配布し、幼保小連携の取組の紹介及び就学までに身に付けておくべき生活習慣等について周知を行った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、就学児童の保護者が集まる機会を捉えて取組について周知を行っていく。

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
	<p>●眠育推進事業</p> <p>○眠育の啓発</p> <p>(1) リーフレットを活用しての啓発 (妊娠期) ・妊娠届時にリーフレット配布 ・パパ手帳への眠育の掲載</p> <p>(乳幼児期) ・乳幼児健診における問診アンケート実施による睡眠リズムの確認及びリーフレットを活用しての保健指導実施</p> <p>(小中学校) ・各学校において保護者参観時にリーフレット説明、配布</p> <p>(2) 絵本を活用した啓発 ・保育所等及び小学校、子育て拠点施設に配布 ・図書館との連携 (H30年～眠育コーナーを設置)</p> <p>○眠育研修会</p> <p>(1) 第1回眠育研修会 ・期日…8/6 ・対象…市内全保育所等及び小中学校教職員 ・講師…日本眠育推進協議会理事 石井正文氏 ・内容…熊本大学名誉教授三池輝久氏の講義DVD視聴、三条市の取組紹介、石井正文氏の講義</p>	<p>・乳幼児健診において、乳幼児の睡眠の実態を把握し、それぞれの状況に応じた保健指導及び事後フォローを行うことで、乳幼児の睡眠に関する問題が改善するケースが多くあった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防対策として、第2回研修会はZoomによる双方向型のオンライン研修とした。</p>	<p>・これまで「学園」を単位としたモデル地区において睡眠調査に取り組んできたが、生活習慣の基盤となる幼児期の眠育を強化することが先決であるため、今後はモデル地区における継続的な実施とともに、特に幼児期に注力し取組を進めていく。</p> <p>・幼児期の眠育は公立保育所から実践し、私立保育園、こども園、幼稚園については準備の整った園から実施していく。</p>

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
	<p>(2) 第2回眠育研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日…11/26 ・対象…モデル地区保育所等及び小中学校教職員 ・講師…熊本大学名誉教授 三池輝久 氏 (Zoomによるオンライン講義) 日本眠育協議会理事 石井正文 氏 ・内容…事例検討 ・参加者…37人 <p>(3) 睡眠調査読取勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日…6/10 ・対象…モデル地区の市内全保育所等及び小中学校教職員 ・講師…日本眠育推進協議会理事 石井正文 氏 ・内容…眠育調査読取実習 ・参加者…14人 <p>○睡眠調査及び眠育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区における2週間の睡眠調査 《実施回数》 瑞穂学園 年3回(幼・保2回) 四つ葉学園 年2回(幼・保1回) 三条おおじま学園 年2回(幼・保1回) ・調査の事前、事後指導の実施 		<ul style="list-style-type: none"> ・眠育調査、判定、集計等の実施担当者の負担軽減を図るため、現在開発が進められている「眠育アプリ」の導入を検討していく。

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
②すまいるファイルの活用 (継続)	<p>●すまいるファイルの活用方法の周知</p> <p>配布数…出生時の保護者等 465人 出生時以外希望数 73人</p>		<p>・引き続き乳児検診や就学時の引継ぎでの活用を進めていく。</p>
③家庭への情報発信 (継続)	<p>●家庭教育や子育て支援に関する情報提供</p> <p>○「令和2年度三条市子育てガイドブック」の配布妊婦届けを出された方に配布</p>		<p>・子育てに関する情報を一元化した冊子として活用されていることから、引き続き取組を実施していく。</p>
④家庭教育や子育てに関する相談の実施 (継続)	<p>●相談会の充実</p> <p>○電話相談：随時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児相談…77件 ・家庭児童相談…総件数 632件 …虐待とは判断しないもの 222件 <p>○来庁相談：事前予約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発育・子育て相談(臨床心理士と言語聴覚士) 月1回の土曜日相談の実施 ・臨床心理士相談…120件 ・言語聴覚士相談…46件 ・その他、保健師による随時相談実施 	<p>・保健師や臨床心理士等、多職種による相談対応により保護者の子育てへの悩みや不安解消につながっているが、新型コロナウイルス感染症予防対策としての相談の形態を検討する必要がある。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症予防対策としてオンラインでの相談対応について検討していく。</p>

施策（２） 地域の子育て支援の拠点化

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
<p>①親子が気軽に交流できる拠点づくり (継続)</p>	<p>●子育て支援センターにおける親同士の交流や相談事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○すまいるランド <ul style="list-style-type: none"> ・定例講座…104回実施 ・参加者…延べ2,250人 ・内容…歌、絵本、折り紙、助産師相談 栄養士相談 ・恒例、特別イベント…15回実施 ・参加者…延べ158人 ・内容…七夕飾りを作ろう ○あそぼって <ul style="list-style-type: none"> ・定例講座…101回実施 ・内容…歌、ダンス、ヨガ、助産師相談、栄養士相談等 ・恒例、特別イベント…新型コロナウイルス感染症対策のため、実施なし ○子育て支援センター（7施設） <ul style="list-style-type: none"> ・行事内容…歌、リズム体操、絵本紹介、季節行事等（各月3回程度） ・育児講座…172回 ・子育て広場利用者…1日平均9人 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止のため、フリーマーケット、夏祭りは中止とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの参加者の感想や要望を踏まえ、事業内容について検討していく。

取組項目	市の取組 実施状況	特記事項	今後の方向性
②子育て支援情報の発信 (継続)	<p>●子育てに関する情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て情報メール配信 (月3回+不定期) ・配信件数…50件 ・内容…子育てセンターイベント情報、子どもの健康注意 手当等に関するお知らせ 		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き子育て世代に必要な情報を発信していく。
③相談支援の実施と関係機関との連携 (継続)	<p>●相談支援に対する情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援センターや幼稚園、保育所(園)等で実施する相談支援に関する情報提供、「NP講座」「初めてのママ講座」開催の周知 		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや子育て情報メール等を通じて周知を行っていく。
④総合的な支援の推進 (強化)	<p>●保育士等への各種支援の周知と実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各種支援事業について周知 各種支援事業、新規事業等について説明 ※子育て支援センター、一時預かり、健康相談、子育て相談、一人親への各種支援等 		<ul style="list-style-type: none"> ・保育所長会議等を通じて周知を行っていく。